

経営比較分析表（平成28年度決算）

佐賀県 西佐賀水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	民間企業出身
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	77.49	12.86	4,345	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
39,042	81.23	480.64

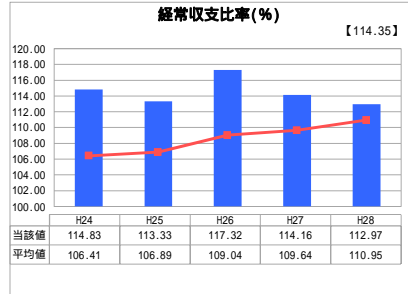
グラフ凡例

■ 当該団体値(当該値)

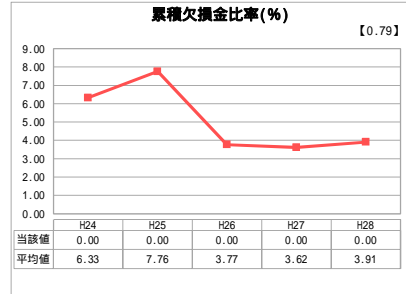
○ 類似団体平均値(平均値)

【】 平成28年度全国平均

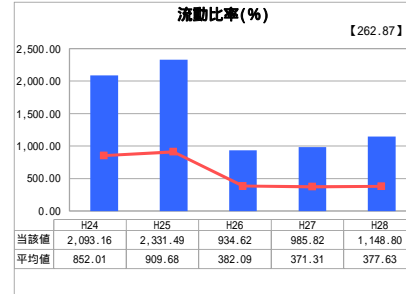
1. 経営の健全性・効率性



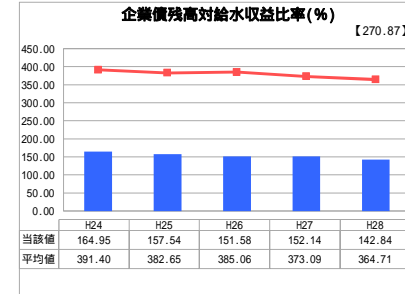
「経常損益」



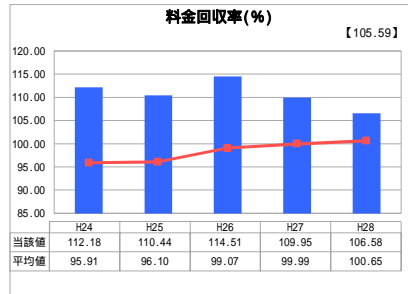
「累積欠損」



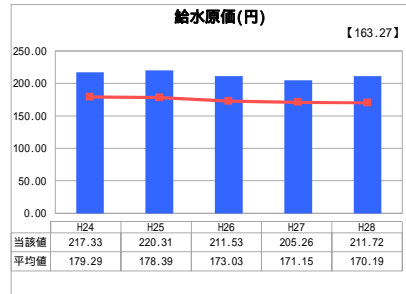
「支払能力」



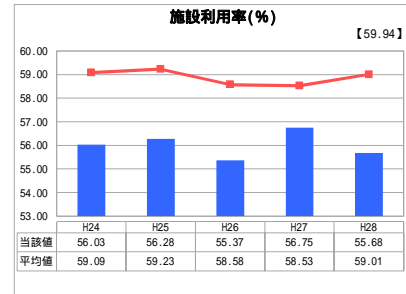
「債務残高」



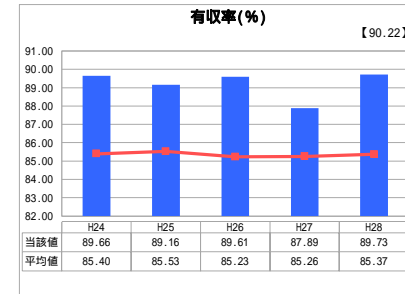
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

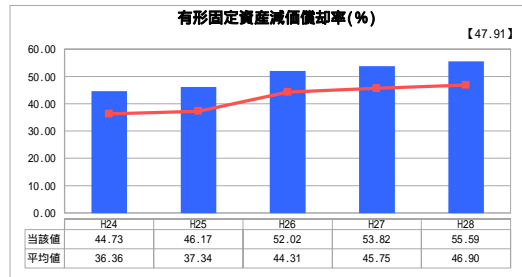


「施設の効率性」

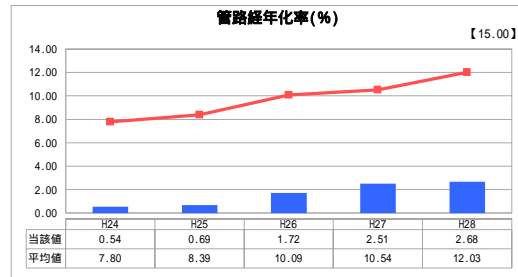


「供給した配水量の効率性」

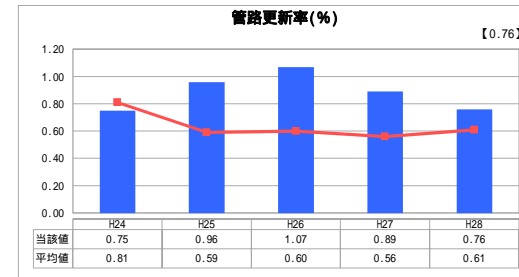
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

当企業団は、累積欠損金もなく経営収支比率や料金回収率等、平均値より良好な数値となっている。平成26年度に流動比率が減となっているのは、公営企業会計基準の見直しによる表面上の変化であり、施設利用率が低く、給水原価が高くなっているのは、佐賀西部広域水道企業団からの用水受水を行っていることに起因している。

現状の経営は良好な状態であるが、給水人口減少や節水機器の普及に伴う収益の減少。増加する更新需要及び耐震化に対応するための財源の確保等の課題に直面している。

2. 老朽化の状況について

当企業団は有形固定資産減価償却率が類似団体より高く老朽化が進んでいる状況にある。管路経年率は平均と比べ低い数値ではあるが昭和53年頃から拡張工事を行っており今後、当時布設した管が一斉に更新時期を迎える。

今後も老朽化が進んでいくものと考えているが、策定した財政計画に基づき老朽管更新工事を計画的に行い、平成29年度からは耐震化事業を始めることとしている。管路を含め施設全体の対策を実行していく予定である。

全体総括

現状、当企業団の経営は良好な状態であるが、水需要の減少、施設の老朽化等の課題に直面している。多額の費用を要する送水管路も更新時期を迎えることから、耐震化事業と合わせて投資計画を考えると限られた予算の中で、より効率的で効果的な運営を図っていく必要がある。

なお、経費削減、更新財源確保、技術の継承等の諸問題に対応していくため、佐賀西部広域水道企業団用水事業及び近隣他団体水道事業と平成32年度統合に向けて協議中である。